

江湖新聞

第十七號



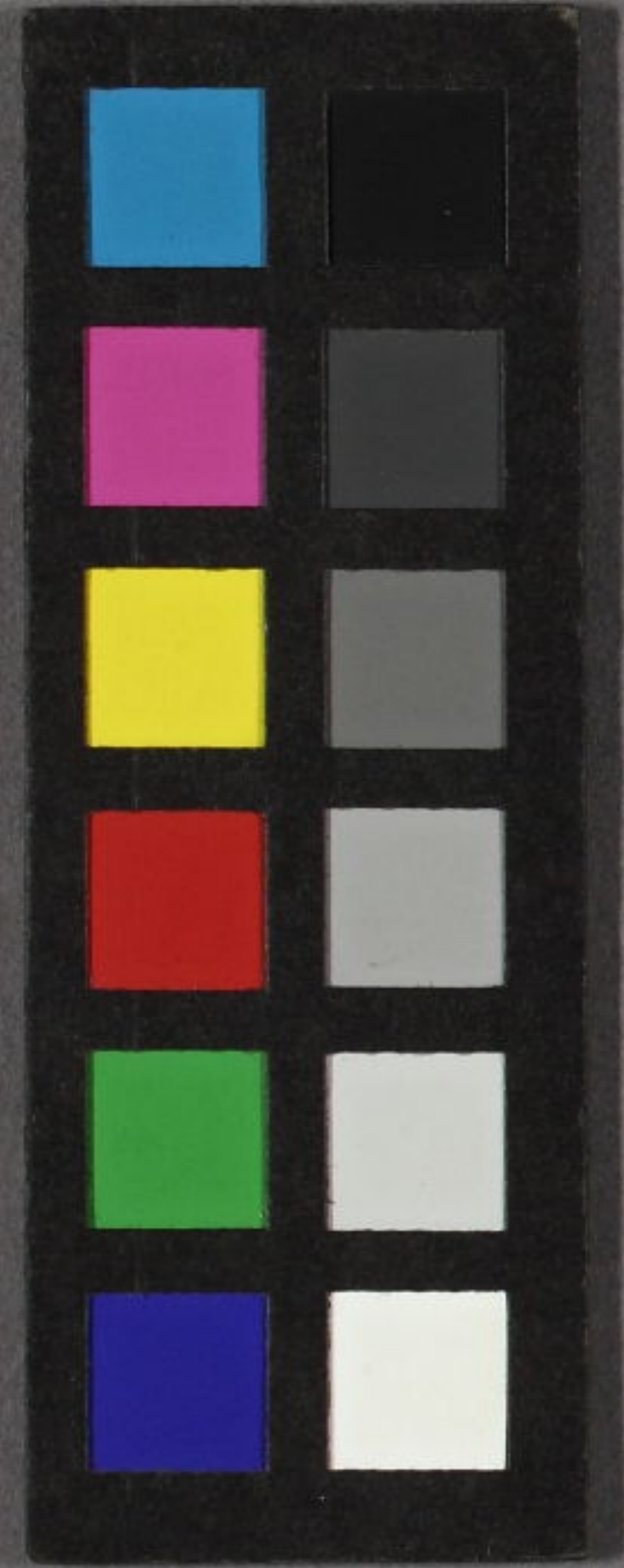
定價八分

西垣文庫 特

文庫 10

7287

17



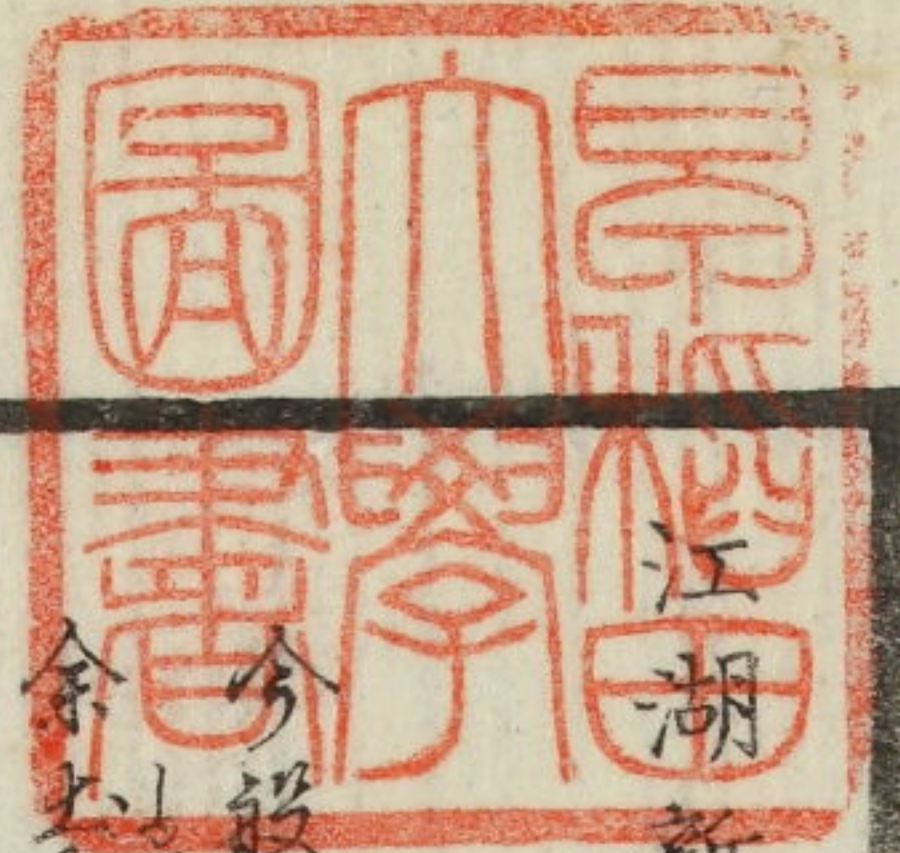
特 文庫10
7287
17

江湖新聞

第十七号

慶應四年戊辰五月八日

西道大庫



加州侯より京師守備に免れお取書面之大意

今般系宛と護と 仙舟の舟人数探出し途中に六百人

余も奔りしより之の好勝不致を令く重役之より不致而

より右に及身之暇好し候之に其の儀之 團許之に強惚を在り

関 所寄書之儀に免れ申上

壬四月

右に外紀州藩系坂あり之三百人余細川藩系地之

三百人余阿州若州肥前守田園傍之諸藩の分れ系坂

より脱走せる士あり加州同撰之振合を以て而申上

工胡三

十一

のまごて確報を聞か

○
奥州白川城の阿部侯は領地替の後空城を以て此度會津
征伐とて仙臺二本松おる柳倉之春磐城小松結城の兵士
入隊し安河放り仙臺之人教の不義國許へ引上りお敵兵凡
ふ三百人程とてお固籠り四月十九日會津先手七八十人白
川一押寄せ来るに付安後侯の去より發砲しし戦事及び
安會と引退き翌廿日會兵曉とて官軍の不意を襲ふ
城を自ら城内へ火を掛り殺死せり依り會兵入し翌り入隊相
圍め居此穴城外へ延焼し町家三軒一程も焼失存り退進

有之に付所州に出陣し官軍方退り白川に向て出張會兵
廿五日ハ白坂迄操出り戦ひ及ぶ柳倉辺に會兵のまゝも押
寄せ来るも難計とて同掛急し人心穩まらざる候
同日廿日廿二日と二日之間大田原に小舟在方戰事有之
是に會兵の内宇於文辺に戦事有る候事也員外若八人日光が
療養を發せしむるに官軍方より安中右へ手負ふ敵引出
し首を刎り中會兵兼り及官軍の所業殊悪く事ありと
憤懣堪へば兵を出し戦ひ及るとい戦事友軍利あり候
のまご

○會津征伐と 仙舟の奥羽に結城人教を引上り會

兵之福勝近出後要害を包圍すの報

右に何事も確證ありとのひびきあり但白川落城す余に傳

諸方より秋勢字局に報せしもの際大回小異なれは諸報を

斟酌し右に畧記せるより他日正報を得ば後次号に編

出せしむ

○

先以孫州に戦象に因勢に兵隊荏宮陣せし時同軍

公用隊を模田甚左衛門と及捕分取功名ありは模田の

口石死し人なりとを因勢に士ハを名を志すべ

○

五月八日内達之報

帰順之軍

朝臣より他付の旨別紙を通

大総督府より仰出の事存す當四月十日に軍城迄の勅

且に宛書等中者之類に聞て得る事あり

右に越前鎮守の家人中に不懐疑たりし者あり

五月

別紙

旗本帰順之輩自今

朝臣之法 仰付以る此は以達以事

○ 去月廿九日柳原殿甲府に以出之其内取侍之儀以書之
を以てら 仰出以府八王子より左に通觸書有之

覚

八王子御始に近候満邑取侍之儀次二日東海道副総督
府より以書取を以て亦人隊一ら 仰付以府得之云以以後
愈きりのども立上り以義元守おまひりて當屯所に可辨
出達之巡撫了候以る以新表柄原おまひりて條近に近在
少儀格で觸知とのや

辰五月

千人隊取扱

役所

八王子

日孫

府中

五日市

書梅

之外 宿村候人等

柳原殿に甲之 秀ハ以同將五十人余村、濱松候之勢
五百五十人余以供以りて以り

○
去月廿六日出水戸より文通と曰く
上様内城増修とあるに水戸表の玉と標の道國所とに
かく宛て戦争有との旨は願と仰ぐに義ハ不告知今
白川落城と報取沙汰有との

○
内達と報

亀く助様此事

上様と尊称

上様此事と

前上様とて尊称昔此程お達し存す此様本は家人同士
限り中上と羨する化はとの對し
此様呼ぶると尊の万自此と事不不不不不不不不不不
寄つては達と

○
五月

横濱新聞紙の抄録

英國公使館書記役之ットフォルトより兵庫大坂へラルト新

聞記者の送り文中、曰く英國公使

帝の拝謁の節 祕教の咫尺イキリスにて拝謁せしむる

西洋普通の場合、あふい持参の圖書の回人より真

所多の筆上りと

